

高山

たかやま
高山の原生林を守る会

会報 第 123 号
2022年 12月



第 185 回観察会・布引山陽だまり観察会

11月26日(日)に川俣町の中心に位置する布引山で観察会を実施しました。参加者は15名でした。布引山は別名「鳴神堂」(ナリカミドウ)と言われ、町の中心部にあって古くから親しまれてきた里山です。観察会の起点は延命地藏泉から。ヤマグリの落葉を各自1枚ずつ拾って布引山へ直登する尾根道を辿りました。

コナラとヤマグリを主とする自然林の多くの樹木はまだ葉をつけています。暖かい日が続いているせいでしょうか。ウリカエデの黄色やヤマモミジの赤系のグラデーションが晩秋の里山に彩を添えます。山頂までの距離はあまりないのですが、カラムシ、ノダケの果実、もち病に罹病したヤマツツジの葉、ナラこぶ病、ハミズゴケと中間地点まで行かないうちに観察ポイントの連続で、なかなか前に進みません。あきれて山頂に向かう参加者もちらほら。やがて両側にクヌギの壮木が現れ、持参したヤマグリの葉と比較し、よく似た葉の違いを確認。

ヒノキ植林地に至る山道が交差すると道は急登になります。その登り口にはユウガギクの花が1輪。ユウガギクは昨年の二十境の羽山観察会でも群落がみられました。クリ、コナラ、クヌギの落葉で敷き詰められた山道は、歩みを追うように響く葉音が心地よい。かろうじて残るムラサキシキブ、ナツハゼ、オトコヨウゾメの果実に思わず足がとまります。Iさんがコナラの分岐部に小枝で作られたニホンリスの巣を見つけました。そして、ようやく、山頂です。山頂にはシラヤマギクが咲き残っていました。



晩秋の紅葉



カレーの香り？



この地べたの緑色はペンキではなく



この赤いの何？



家主は不在

第 184 回高山・幕川ブナ林の紅葉観察会



9月25日(日)に第184回高山・幕川ブナ林の紅葉観察会を実施しました。参加者は11名でした。コースは幕川温泉からスカイラインまでです。この登山道は東北自然歩道「新奥の細道」No.21「樹海の中の滝を巡って浄土平へ向かうみち」の一部にあたります。「新奥の細道」は環境省が自然や文化に触れながら環境保護の意識を高めてもらう狙いで1990年から整備した歩道です。福島県白河市旗宿を起点とし、東北6県をめぐる福島県郡山市を終点とする229のコースと連絡コースから構成されています。幕川温泉

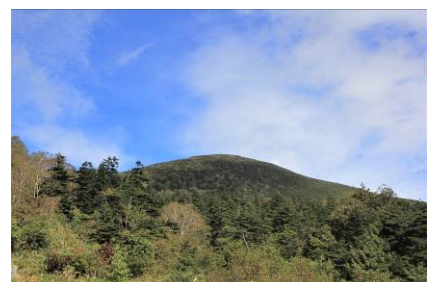
からの沢沿いの観察コースはブナ林からオオシラビソ林に森が変わっていく様子を観察できます。本来であれば自然度の高い山域ですが、幕川温泉周辺は、特定指定外来植物オオハンゴンソウの黄色い花の群生が。幕川温泉裏小沢を渡ると、自然林の始まりです。その入り口にもオオハンゴンソウが数株。斜面を少し登ると沢沿いに植生するサワグルミの壮木が林立する姿が目の前に、漸く自然林の雰囲気。しばらくはシナノキが連続し、やがて本格的なブナ林に、コメツガやダケカンバが現れると辺りは若い樹木が目立つようになり、ブナの葉に目をやると虫こぶが。スカイラインからはオオシラビソに混じり、シラビソも。一帯の高山西斜面は北限のシラビソの植生地になっています。しばらく進むとテツカエデの群落が現れました。多くのテツカエデの葉にはなぜか黒紋病の病斑が見られました。オオシラビソ林で昼食をとり、下山しました。出口ではオオハンゴンソウの花にビニール袋をかぶせ株元から採取して観察会を終えました。



観察の眼の方向はそれぞれ



かろうじての紅葉観察



高山西斜面はシラビソの植生地

身体のものさし10 ～脳の呼吸・骨盤の呼吸～ 土井 昇

肺癌から肝臓や骨への転移があり、最後は自宅で過ごしたいと帰宅した人。痛みが始まると、耐えている表情を見るのが辛くなる。痛む場所に愉気をして、一番楽な姿勢をとって、後頭部に左手、仙骨部に右手を当てた。伝わってくる動きを感じて、その上下への動きをほんの少し誇張する。次第に後頭骨と仙骨の動きが大きくなって同調してくると、眠ってしまった。1時間ほどしてから痛みで目が覚めたが、その間の眠りはどれほど深かったのだろうか。何も出来ずに看ているのは辛い。わずかであっても、掌を当ててできる方法があるのを有難く思った。

また、パニック障害の人が車に乗れず頼まれて自宅に行った。間もなく過呼吸が起きた。脈を取り、一息一脈であったので、背中を強めになでおろし、水落ちを臍に向かって下げた。息が少し変化したので、自然にとっている胎児のポーズのまま、後頭骨と仙骨に手を当てて、リズムを整えるようにして待つと、2分程で普通の息に近づいた。ペットボトルに湯を入れて腹部に抱かせ、足部に毛布を掛けると安定し、笑顔が戻った。こうした時にも後頭骨と仙骨が同調してくると回復することが確かめられた。脳の呼吸、正しくは脳脊髄液の流れを言う。脳室という中心の空洞部に脳脊髄液が満ち足りたり、減少したり、まるで潮の干満の様だ。その度に、脳は膨らみ、しばむ。動きの強さ、幅、速度の左右差や仙骨との同調性も併せて診る。脳は精神領域の代表で、仙骨を中心にした骨盤は本能領域の代表。この二つの場所は脊柱管を媒介して互いの呼吸を同期させ、相補的に身体と精神の有機性やバランスを担保している。もともと脳の前器は腸管の壁のすぐ外側に生まれ、それが頭端へと移動していったという。生物としてこの二つの場所のリズムは永く不可分なものとして共有されてきている。

昔、6年程ヨガを続けていた。先生の主導で、百名を超える人々と行うゆったりとした行法で身体の奥底まで息が入り出した後、尽く弛んで、休息を経て生まれ変わったような覚醒が来るのを体感した。おそらく仙骨と後頭骨のリズムも同期し合一して深い統一感に満たされたのではなからうか。自分を調えるツールと習慣を得た時に芽生えてきたのは、自分で身体を良くしていけるという“希望”であった。

老いるという事について 林 和寛

少し前に老人施設で殺人事件がおきた。50歳の介護職員が90歳になるおばあちゃんを殺害し、札幌に逃亡したところを逮捕された。介護職員はおばあちゃんに「バカは部屋に入るな！」と言われ、逆上して暴行し、グッタリしたところに熱湯をかけたらしい。以前から受け続けた暴言に感情が爆発してしまった。新幹線のチケット売場のカメラに犯人の姿がとらえられ逮捕に至ったようだ。

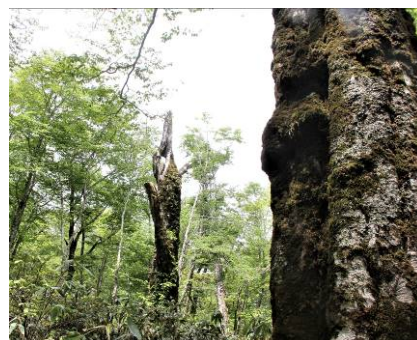
さて、私の友人に4歳年上のAさんがいる。彼は東京での仕事に疲れ、定年前に退職し、東京の家を売却し、千葉県旭市でイヌ2匹と隠遁生活をしていた。趣味は鉄道模型と戦車、戦艦のプラモ作りであった。その彼が、ある日、脳出血で倒れた。どのくらいの時間がたったかわからないが、飼っているイヌの声で目を覚まし、隣の家まで這って行き、救急搬送となった。イヌは彼にとって命の恩人となった。彼は今、静岡県三島の施設にいる。脳出血により、視野が大きく欠けたようだ。後日、網膜に出血が見られ、レーザーで焼いたと語っていた。彼は糖尿を長く患っていた。そもその原因は糖尿である。糖尿病の彼の施設での生活である。透析までは至っていないが、厳しい食事制限である。毎食のゴハンの量は120g、パンの日は食パン1/2枚らしい。そんな彼からある日、電話があった。「林！！おかきが食べたい」というのである。私はスーパーに走り、段ボール箱いっぱいにせんべいを詰め“健康食品”と書いて送った。初めのうちは順調に彼のもとに“せんべい”が届いていたようであるが、また“事件”が起こった。施設長が“健康食品”と書かれた荷物の検査をケアマネに命じた。荷物は施設長とケアマネとAさんの立会いの下開封された。結果は没収である。その後“健康食品”の管理はケアマネに委ねられ、ケアマネの気分次第で少量ずつAさんに受けわたされている。

彼は今の施設を動物園と呼ぶ。さまざまな症状を抱えた老人が住んでいる。風呂は週2回、食事の時はスプーンでおわんをたたく人でとても賑やかになる。夜は徘徊する人が部屋のドアを開けて入ってきたりする。彼の状態は日々悪化しているようだ。初めは普通にトイレに歩いて用を足していたようであるが、いつしかポータブルトイレになった。歩行器につかまって歩いていた訓練もおぼつかなくなっている。最近はオネショまでするようになった。シーツまでグッショリらしい。Aさんは毎日、私に電話をかけてくる。時刻は決まって夕方の6:30前後である。時間は約1時間。2時間に及ぶ時もある。寂しいのである。今の自由の無い、いわば刑務所のような生活。腹いっぱい食べたいものを食べられない食生活。日々思うように動かなくなっていく身体。見えなくなっていく目。なにより、楽しみのプラモ作りが手先の震え、おぼつかない視力ゆえにできなくなっていく。そういった事が怒りに変っていく。自分の思うように動いてくれない施設の職員。話もろくに聞いてくれない施設の職員。そして電話口の私にも向けられていく。そしてせんべいの催促が続く。

私は父親が亡くなり、2015年に実家に戻った。母は認知症でしばらく一緒に暮らしていたが、ショートステイを期に施設に入れることができた。母を介護する“責任”を施設に丸投げしてしまった。認知症は母の性格を変えた。他人に憎まれ口を常に発するようになり、私が施設に母を見舞いに行くと、必ず「林さんは口が悪い！性格だな！」と言われた。やがて母親は尿意がなくなり、垂れ流し状態になった。そして汚れたパンツを部屋に隠し、部屋は尿臭にまみれるようになった。職員が紙おむつをはかしても脱いでしまう日々が続いた。そんな母親がある日、施設の玄関でシリをまくって小便をした。恐らく母親は職員、施設に怒りを持ったのだろう。母親の施設に対する反抗である。施設はクリニックと協議の上、薬で母親を歩けなくした。これでもう紙オムツを自分の力で脱ぐことができなくなる。施設内で“こまったちゃん”の母親はこうして飼いつづらされた。それから母親はみるみる衰えていった。年1、2回入院するようになり、今年5月86歳でなくなった。施設は月16～22万円のお客様を1人失った。

私が実家に戻った2015年、向かいの家に90歳のおばあちゃんが1人で住んでいた。私が子供のころずいぶんお世話になった方である。彼女はよく手押し車シルバーカートを押してスーパーに買物に出かけていた。元気に一人で生活されていたのである。現在、向かいの家は空き家になってしまった。町内会とおばあちゃんの家族の話し合いがもたれたらしく、四季の里近くの施設に入られた。孤独死されては困るという事である。おばあちゃん本人の意思は分かりかねるが1人で生きる“自由”を奪われてしまった。

世界は日本という老人大国の生末をかたずをのんで見ているという。ドイツなどは特に注視しているらしい。現在、日本という超大国は、一万円札を猛烈な勢いで印刷し、老人医療、老人施設、介護施設を支えている。私は今年62歳になった。天皇陛下と同年である。前立腺ガンも天皇陛下と同じである。自由を失う恐怖、怒りで他人に迷惑をかける恐怖、甘えてしまう恐怖……。私はこれからどこへ行けばよいのか。



老いる

高山の原生林を守る会 2022年定期総会報告

2022年11月20日(日) 午後13:00~16:00
立子山自然の家会議室

2022年活動報告

月日	内容	参加人数
11月21日(日)	第179回高子二十境陽だまり観察会と総会	22名
11月23日(火)	虎捕山登山道放射線量調査	3名
12月3日(金)	野手上山登山道放射線量調査	4名
12月15日(水)	第2回登山フィールド部会(喜多方プラザ文化センター)	2名
2月4日(金)	第3回登山フィールド部会	2名
2月16日(水)	磐梯朝日国立公園磐梯吾妻・猪苗代地域満喫プロジェクト地域協議会	1名
2月27日(日)	第180回横向(鬼面山西斜面)ブナ林観察会	15名
4月17日(日)	第181回早坂山のスプリングエフェメラル観察会	21名
5月15日(日)	第182回野手上山シロヤシオの森観察会(放射線量測定)	20名
6月9日(木)	環境省(裏磐梯自然保護官事務所)打合せ	2名
6月14日(火)	西吾妻登山道誘導ロープ設置ボランティア(NF米沢、東北山岳ガイド協会と共同、一般公募)	2名(+12名)
6月18日(土)	西吾妻登山道誘導ロープ設置ボランティア(NF米沢、東北山岳ガイド協会と共同、一般公募)	4名(+4名)
7月3日(日)	第183回百貫清水の高原植物観察会	13名
7月28日(木)	磐梯朝日国立公園磐梯吾妻・猪苗代地域満喫プロジェクト地域協議会	2名
9月3日(土)	花塚山登山道放射線量調査	5名
9月22日(木)	西吾妻登山道整備現地調査	1名(+10名)
9月25日(日)	第184回高山・幕川ブナ林の紅葉観察会	11名
10月1日(土)	霊山空間線量調査	4名(+2名)
10月11日(火)	第4回登山フィールド部会	1名
10月15日(土)	西吾妻登山道誘導ロープ取り下げボランティア(NF米沢と共同)	6名
10月19日(水)	西吾妻登山道整備	2名(+20名)
11月20日(日)	第185回布引山陽だまり観察会と総会	

2022年 高山の原生林を守る会 決算書

収入 (単位 円)			支出 (単位 円)		
科目	予算額	決算額	科目	予算額	決算額
前期繰越金	142,247	142,247	会議費	3,000	0
年会費	45,000	56,000	郵送費	15,000	11,430
観察会参加費	50,000	48,000	観察会経費	5,000	0
保険金差額繰入金	5,000	14,582	交通費	20,000	17,500
雑収入	1,000	32,800	保険代	32,470	24,530
合計	243,247	293,629	HPプロバイダー料	4,000	4,730
			印刷費	30,000	19,354
			雑費	12,000	10,800
			予備費	121,777	0
			合計	243,247	88,344

収入 293,629 円

支出 88,344 円

差引残高 205,285円

収支差引残金 205,285円は次年に繰り越すものとする。

2022年11月20日

高山の原生林を守る会 代表 佐藤 守

2023年活動計画

1. 観察会、登山道保全活動、阿武隈山地の放射線量調査を事業の3本柱とします。
2. ロープ設置作業の一般公募を天元台側とデコ平側に分けて継続します。ロープ取り下げ作業はゴンドラを利用します。ボランティア作業に係る経費は全額参加者負担とします。ゴンドラ代は、年間1万円を上限に一般公募者に対して会として助成します。別途、公募の際には、ボランティア資金の寄付を呼びかけます。
3. 環境省の磐梯朝日国立公園磐梯吾妻・猪苗代地域満喫プロジェクト地域協議会(国立公園満喫プロジェクト)登山フィールド部会で、西大巔～西吾妻小屋の区間が登山道保全のモデル事業に指定され、2022年度より近自然工法による整備事業が実施されています。2022年に引き続きこの整備事業に参画するとともに、西吾妻山域登山道保全管理体制の具体化を働きかけます。

ボランティア作業に係るロープウェイ・リフト代を支援していただける方を求めています。ご協力いただける方は下記に振込をお願いします(通信欄に「ボランティア資金」と記載をお願いします)
郵便振替:02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

外へ出て玄関の引き戸を閉めて「Kさんオレ無理だ、ここに泊まるならまだ野宿のほうがいい」と言うと、先輩のKさんも「そうだな」と自分に言い聞かせるように呟いた。

高校の山岳部では春山合宿が終わると、三年生は大体部活を引退して大学受験の準備に取り掛かる。だがK先輩は夏になってもやたら張り切っていた。部長の彼はその年の夏山合宿は中央アルプス全山縦走にするぞと勝手に言いだし、そのために丹沢で藪漕ぎ訓練合宿(当時は空木岳から先は道が整備されてなかったらしい)や、テント生活訓練合宿を何回もやらされた。我々後輩たちは「ベトコン(K先輩のあだ名)大学受験早々にあきらめたな」と囁き交わしながら噂した。そんな無闇矢鱈に張り切っている先輩の下で、後輩たちはビクビクしながらの中央アルプス山行だった。山岳部創部50年の記念誌に「(昭和41年の夏山合宿の)失敗原因は、部員の体力不足およびリーダークラスの判断力の甘さにより、目標の中央アルプス全山縦走がかなわず木曾殿乗越より下山せざるを得なかった」と記載されている。あの時は下級生たち皆が縦走断念の決定に、これで解放されるもうテントで寝なくてもいいんだと、ベトコンには悪かったが心の中で喜んだ。そこまでの四日間の縦走とテント生活に、みんな(ベトコン以外)ウンザリ身も心もへたばっていた。結論から言うと報告書通り我々は決定的に練習と鍛錬が足りなかったのである。

そんなこんなで山を下り一行が中央本線の倉本駅に着くと、合宿はそこで一応の解散。これで家に帰れるとホッとしていた私の所に、ベトコンが近寄って来て「俺名古屋回りで帰るから、お前もつき合え」と高飛車に言った。私が「Kさん早く帰らなくていいんですか?」と聞くと、「予定より三日早く下山したんだから大丈夫だ、それにもし帰りが遅れたって、誰も心配なんかしねえよ」と投げ遣りに答えた。こちらは先輩の受験勉強の心配をしているのに、どうやら相手は家族が心配するのではととったようだ。思えばこの時の縦走失敗は私にも大いに責任がある、そしてきっぷは周遊券、行き先変更しても心配ない「それじゃ名古屋行きますか」と気安く返事をした。その後中央東線方面に乗る皆と別れて、我々は中央西線で名古屋に向かうことになった。名古屋駅に着くとまずはその夜のねぐら探しとなったのだが、ベトコンがドヤ街に泊まってみたくて興味津々の表情で言った。自分もテント以外なら何処でもいいやと気楽な気持ちでその提案に同意して、登山靴を靴ひもでザックにぶら下げ、草履の音をペタペタさせてKさんについてドヤ街に行った。そして何軒かある簡易宿泊所の中から一軒を選び帳場の前に立つと、そこはタバコと酒そして饅えた汗の臭いが入り混じり充満していて、具体的に何がどうのというのではないが、強烈な混沌とした空気が二人の心に突き刺さった。ベトコンは帳場で宿泊料を聞き「それじゃ飯を食ってきます」と言って逃げ出した。当時ベトナム反戦運動の学生闘士たちが、ドヤ街に屯しているという噂を若者の週刊誌等で読んで、どうやらベトコン、ドヤ街を冒険してみたいと思ったらしい。だがそれは甘っちょろい企てだった。二人は未知の世界を一瞬覗こうとして、現実社会の混沌とした、もの凄い虚無感と物悲しさに圧倒されて撥ね返されてしまった。その後は二人とも疲れ切って無言のまま駅に戻り、もうなにもする気になれず駅構内コンコースのコンクリートの上で寝袋に入り寝込んでしまった。すると夜中に二人の鉄道公安官(今の鉄道警察隊)が声をかけてきた「君たちなんでここで寝てるの、お金はあるのか」と質問され「お金も切符もあります」と言って周遊券を見せて、山の帰りで明日の鈍行で横浜まで行くと説明すると、高校の名前が書かれたキスリングを見て「朝はこの場所は通勤客がいっぱい通るから早く起きた方がいいよ」と言って立ち去っていった。そして翌朝は彼らの言った通り朝の通勤ラッシュの雑踏の騒音で目が覚めることとなった。人々は寝ている僕等には目もくれず黙々と改札口に向かって歩いていた。

こうしてベトコンは中学高校の山岳部生活で謳歌した、青春の第一章に別れを告げ次の第二章を目指すため、その区切りとして成功はしなかったが中央アルプス全山縦走と、ドヤ街探検をしたのかも知れない。その後先輩は卒業まで一度も部室に現れなかった。そして翌年希望の大学に現役合格し山岳部に入部した。海外遠征も夢見ていたらしいベトコン、きっとそこでも青春を謳歌したのだと思う。ベトコンことK先輩とは彼の卒業後一度も会ってはいないが、今でも懐かしく心に残る先輩のひとりだ。



山岳部創部50年の記念誌



宝剣岳

東北ブナ紀行（83）

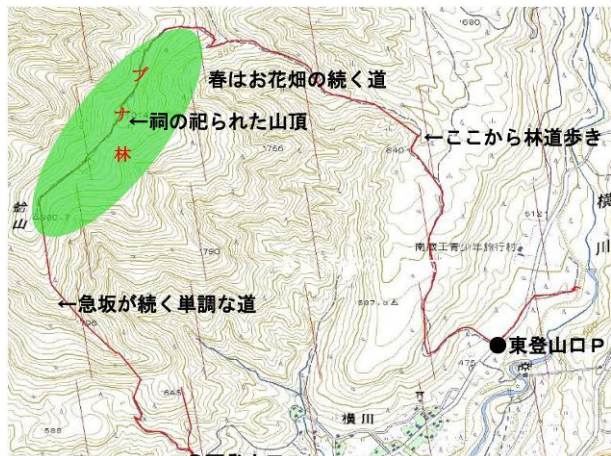
奥田 博

宮城県の前山訪問は終わりに近い。見事なブナ林から、目を引く大木の一本ブナなど多彩だが、奥深さを感じさせる森は、宮城県には少なかった。

131) 蛤山 1014m

蛤山は宮城南部にあり、福島県から訪れる登山者は多い。春の花の季節は何度も登っているが、周回コースは花に恵まれて楽しい。ブナは標高900m前後の山頂部に自生している。山頂の北側は花が主役になることが多く、勢い南側は立派なブナが主役だ。特に三角点山頂のコキンバイと大木のブナの組合せがベストだが、両方を取る技術もレンズもない。花は少なくなるが、新緑も捨てがたい。そういえば紅葉の季節には登ったことがないことに気付いた。

コースタイム：西登山口（1時間30分）山頂（1時間20分）東登山口



丈の低いコキンバイと大木のブナを写真に収めるのは至難の業

132) 大倉山 834m

大倉山と氾濫原と呼ばれる花の沢を周回することが多い。今回は、早春の花も終わった頃にブナ新緑とシロヤシオを狙って入山した。桑沼の南岸からの登路は、登山禁止になってしまった。このルートは、急坂だが短時間で尾根に出られる点、優れていた。尾根に出るとシロヤシオが咲いている。というか咲き競うように次々と現れて実に見事だ。シロヤシオは大倉山山頂から北泉ヶ岳手前まで満開だった。大倉山頂から下っても、見事なブナは続く。下るにつれて新緑は瑞々しいが尾根道にシロヤシオの花びらが散って、それはそれで美しかった。

コースタイム：登山口（1時間）主尾根（1時間20分）大倉山頂（2時間30分）登山口



手前にマイヅルソウ、奥にシロヤシオとブナとミズナラ
贅沢な眺め

オトコウゾメ (*Viburnum phlebotrichum* ガマズミ科ガマズミ属)

吾妻・安達太良連峰のコナラ林からブナ林にかけて植生する落葉広葉樹。日本固有種。ブナ・シラキ群集を特徴づける樹木の一つとされる。確かにシラキの植生する森に多いかもしれない。「オトコ」の由来は不明。ガマズミの仲間であるが、葉の大きさと形状、花の姿と咲き方、紅葉の様子は繊細で、他のガマズミ類とは異なる特徴がある。これらには、ガマズミ類の中で特段に強調されるべき「オトコ」を連想させるものは無いように思う。名が体を表わさないのだが、コミュニケーションのきっかけを作るには便利な名前のように思う。

葉は対生。葉形は長卵形で先は尖る。葉の表面は並行に走る5~8対の側脈に沿って窪む。葉縁は三角形の単鋸歯があり、その先は尖る。葉色は、表面は緑、葉裏は緑白で、葉柄は紫色を帯びる。葉は乾燥すると黒変する。

花は頂生。短枝の葉の間から散房花序が垂れ下がる。他のガマズミ類の花序は上向きである。また、小花の数も明らかに他のガマズミ類より少ない。花柄、花冠には白い毛が密生する。小花は合弁花であるが花心部から5裂し、外観は花弁状、雄しべは5本、葯の色は薄い肌色。雌しべは1本。柱頭先端は3裂し、赤色を呈する。丸みを帯びた白い裂片と赤い柱頭の組み合わせが愛くるしい雰囲気を醸し出している。



オトコウゾメは花と紅葉が秀麗でカエデと似たところがある。青緑色の葉の上に小さな白い花がしなやかに垂れ下がった姿はけなげで清らか。紅葉は散乱光の強弱に応じて黄緑色から茜色までグラデーションが見られる。花の季節は、ひそやかであるが紅葉の季節はカエデに劣らない存在感。形容しがたいその色彩で見るものを引き付ける。



エゴノキ (*Styrax japonica* エゴノキ科エゴノキ属)

吾妻・安達太良連峰のクリ・コナラ林からブナ林の林縁や沢沿いに植生する落葉広葉樹。英名は *Japanese snowbell*。学名や英名が示すように日本を表徴する樹木。吾妻・安達太良山麓の自然林では種々の開発が進んだせいなのか、ヤマザクラのような花をめぐる対象から外されたせいなのか、花を見かけることは少ないように思われる。しかし、ウワミズザクラの咲く頃に樹冠いっぱい吊下がって花が咲く様子はまさにシャンデリアノキ。

葉は互生。楕円形の両端をとがらせたような端正な葉形。青緑の葉身に白い主脈と側脈が走る。葉縁には細かい鋸歯がある。冬芽は裸芽タイプ。

花は頂腋性。葉の間から集散花序を形成する。伸びた花序柄が分岐し、その先端に白い合弁花を数輪咲かせる。花冠は深く5つに裂けるため裂片が花弁のように見える。裂片に星状毛が密生する。花柄は長く、小花は下垂する。雄しべは10個、葯の色は橙色。白い扁平な花糸の内側に細長い葯が着いている。雌しべは一個。花柱は橙から先端に行くにしたがって白くなり柱頭は淡緑色を呈する。花には芳香がある。



果皮はエゴサポニンを含むため果皮のしぼり汁はえぐい味がすることが命名の由来とされる。他にも、泡立ちが良いしぼり汁を石鹼代わりにしたことからシャボンノキ。カンジキなど木工細工も。エゴノキの花を詠み込んだとされる万葉集「路のべのいちしの花のいちろく人皆知りぬわが恋妻は」などは、古くから里に暮らす日本人の生活に溶け込んできたことの証。種子の部分は無毒でヤマガラが好む。ヤマガラは土中に種子を埋めて貯蔵して食べる。

山を散策していると枝先に人間の手を付けた樹に出会った。調べたらエゴノネコアシアブラムシが芽に寄生してできたエゴノネコアシフシであった。人ではなく猫でした。感受性の相違か。葉はエゴツルクビオトシブミの揺籃の材料になる。かくしてエゴノキは人間の他に多くの生物の世話をしている樹でもある。

2023年自然観察会計画

回数	月日	候補地	テーマ	集合時間	解散時間	担当者
186回	2/26(日)	十万劫自然林 集合場所 小島の森駐車場	冬芽観察	8:00	15:30	奥田 博
187回	4/23(日)	奥土湯自然林 集合場所 四季の里正面入り口駐車場	早春の植物観察	8:00	15:30	松井さき子
188回	6/4(日)	母成峠ブナ林 集合場所 四季の里正面入り口駐車場	新緑のブナ林観察	8:00	15:30	五十嵐礼子
189回	8/6(日)	兎平～鳥子平～景場平 集合場所 四季の里正面入り口駐車場	高原植物観察	8:00	16:30	渡辺京子
190回	10/29(日)	雄子沢ブナ林 集合場所 四季の里正面入り口駐車場	紅葉のブナ林観察	8:00	16:00	渡邊アヤ子
191回	11/26(日)	水林公園 集合場所 四季の里正面入り口駐車場 総会 福島市西学習センター研修室	里山観察	8:30	12:00	青柳静子

西吾妻の登山道保全ボランティア

月日	曜日	山域	作業内容	備考
6月13日	(火)	西大巔鞍部	誘導ロープ設置	一般公募、NF米沢との共同開催
6月14日	(水)	(予備日)		
6月17日	(土)	西吾妻小屋		
6月18日	(日)	(予備日)		
9月中下旬			登山道整備	環境省登山道保全モデル事業
10月14日	(土)	西大巔	誘導ロープ取下	一般公募、NF米沢との共同開催
10月15日	(日)	(予備日)		

- 1) 登山道誘導ロープの設置: 実施日は上記の日程とするが、西吾妻小屋側は天元台のゴンドラ開始日に合わせる。
- 2) 近自然工法による登山道整備: 9月中旬(環境省と調整)
- 3) ロープ取り下げ作業はゴンドラを利用する。ゴンドラ代は全額参加者負担を原則とする。

第186回自然観察会案内：十万劫自然林の冬芽観察会

日時：2023年2月26日(日) 8:00～15:30

集合場所 茶屋沼駐車場 集合時間 8:00 参加定員 20名

内容 花の無い季節に十万劫山で、フィールドサインや冬芽等、森の表情や春のさざしを観察します。

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋(軍手複数)、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳、冬季歩行用具(スノーシュー、カンジキ、スキー)

* 装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用: 保険代(500円)、申し込み: 2月24日(金)まで佐藤守(024-593-0188)へ電話またはメールにてお願いいたします(電話申込は午後7時～9時でお願いします)。

2023年カタクリの会奥羽自然観察会計画

月日(曜日)	回数	テーマ	観察地(集合時間・場所)
1/22 日	385	冬の生き物	廻戸周辺(10時:湯夢プラザ)
2/12 日	386	雪の自然観察	雪国文化研究所(10時)前日雪あかり
3/12 日	387	春を見つけよう	ツキザワの家周辺(9時:湯夢プラザ)
4/30 日	388	カタクリの里歩き	ツキザワの家周辺(9時:湯夢プラザ)
5/14 日	389	夏の渡り鳥	ツキザワの家周辺(9時:湯夢プラザ)春の企画展
6/11 日	390	新緑の森	ツキザワの家周辺(9時:湯夢プラザ)春の収穫祭
7/16 日	391	夏の花と虫	ツキザワの家周辺(9時:湯夢プラザ)
8/20 日	392	水生生物と川歩き	ツキザワの家周辺(9時:湯夢プラザ)
9/17 日	393	木の実と秋の花	ツキザワの家周辺(9時:湯夢プラザ)
10/15 日	394	落葉とキノコ	ツキザワの家周辺(9時:湯夢プラザ)秋の企画展
11/5 日	395	冬の渡り鳥	錦秋湖周辺(9時:湯夢プラザ)
12/3 日	396	初冬の森	西和賀町内(10時:湯夢プラザ)

カタクリの会は自然観察会を目的とした会で、どなたでも参加できます。参加申込は各観察会の1ヶ月前から電話で受け付けます。天候などの状況によって観察地の変更もあります。参加費は500円通常は午前中開催となり、12時解散となります。カタクリ通信を偶数月に発行しており、希望者には年間千円で年6回送付します。(郵便振込:カタクリの会 02350-5-38765) 連絡先 代表 瀬川強 〒029-5512 和賀郡西和賀町川尻 41-72-15

電話&FAX 0197(82)3601 email:tsuyosi.segawa1954@gmail.com

振込による会費の納入は、郵便振替02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

「高山」高山の原生林を守る会会報 第123号 2022年12月発行

編集・発行：高山の原生林を守る会 HP:<http://www15.plala.or.jp/adumatakayama/index.htm>

代表連絡先：佐藤 守 Phone 024-593-0188(夜間7時～9時)

郵便振替：02170-0-24351 「高山の原生林を守る会」

入会方法：年会費(1000円)を添えて上記まで

編集：佐藤・奥田